

ペスタロッチー・フレーベル学会 課題研究

関東地区第6回 研究発表会報告

関東地区課題研究 第六回会合は、次のように行われました。そのレジュメは、資料として、添付します。

日時:2011年10月29(土) PM14:00~17:00

場所:中央大学理工学部6号館8階、人文社会教室会議室(6814号室)

出席者

小田倉泉、岸信行、豊泉清浩、中島朋紀、黛幸一郎

欠席者

佐久間裕之、鳥光美奈緒子、湯川嘉津美

研究発表者と題目

小田倉 泉 『子どもをいかに愛するか 一家庭編一』に見るコルチャックの乳幼児の権利
中島 朋紀 「親の躰に関する調査研究」

第5回研究発表会は、本来は3月に予定されていたが、東日本大震災の影響で、節電対策がとられ、交通に影響が出て、予定を変更せざるを得なくなり、7月開催ということになり、7月23日に開催したので、第六回目は10月29日(土)開催となった。

発表者は前回予定していて、都合により今回発表となった中島会員と小田倉会員であった。

冒頭、司会の岸から学会のホームページを通じて課題研究「子育て支援」に参加希望のある横浜在住の黛幸一郎氏の紹介があった。その後、氏によって、「ペスタロッチーやフレーベルなどの思想を受け継いだ幼稚園の設立を意図しており、そのためにいろいろと勉強したい」との考え方が披露された。

発表は、まず小田倉泉会員が『子どもをいかに愛するか 一家庭編一』に見るコルチャックの乳幼児の権利と題する発表を行った。さまざまな観点からコルチャックの児童観が語られ、今日に通じる子どもの在り方という点に関して、とても深い哲学的な考え方が彼の「子どもの権利主張」の背後にはあることが語られ、そこには、「人間の尊厳」にまで通じる時代を超えた深い思想があることが述べられた。

続いて中島朋紀会員が、小学校5~6年生を対象とした実際の調査から、特にその年代の子どもたちが、他者を気づかう「おもいやり」についてどのような考え方をもち、どう行動しているのか、ということについて、保護者の子どもに対しての期待も含めて発表があった。

それぞれの発表について出席者から感想が述べられ、更に休憩をはさみ、本日もなされた二つの発表に対して、時代を超えて教育について大切になる「考え方」などについて、それぞれの専門とする研究の立場から意見が述べられ、二つの発表は有意義なものとなった。午後5時15分頃に終わった。

次回は、本日より出席される黛会員の「幼稚園創設に対する思い」などを発表して頂くこととなり、もうお一人は湯川会員の御都合を伺い決定しようということになり、その結果次のように決定した。

次回の研究発表会の予定。

日時: 2012年01月28日(土) PM14:00~17:00

場所: 中央大学理工学部6号館8階、人文社会教室会議室 (6814号室)

発表者・発表題目

黛 幸一郎 「子供の育ちに大切な事」

湯川嘉津美 「幼稚園と家庭教育の関係をめぐる歴史的考察」

以上